

【南九州税理士会会長賞】

税金に支えられて

都城市立夏尾中学校

三年 吉永 隼人

「税金」

学校の授業や、毎年実施されている租税教室で、僕たちの生活において「なくてはならないもの」であるということを学んでいるので、大まかには理解しているつもりでした。けれども、買い物の際に、お店やさんに支払うお金の中に「消費税が含まれている」ということを知っている程度で、どんな目的で、どのように使われているのかについては、あまりよくわかっていませんでした。

四月の一学期始業の日、例年のように新しい教科書が配付されました。名前を書く欄の下に「この教科書は（中略）税金によって無償で支給されています。（後略）」とあるのに気がつきました。もちろん、これまでの教科書にも書かれていましたが、ほとんど目に留まっていませんでした。四月に当たり前にもらえていた教科書にも、税金が使われていることに気がきました。中学校の先生が

「高校に進学したら、教科書は購入しないといけないのですよ。」

と言われるのはこういうことだったのかと認識することができました。よく考えると、学校のほとんどは税金でまかなわれているということに、初めて気付かされました。

僕の通う夏尾中学校は全校生徒十九名、都城市の特認校に指定されており、都城市内であれば、どの中学校区からでも通学することができます。地元の生徒よりも、この制度を使って通学する生徒の方が多く、僕もその一人です。大規模校と比べると、校舎はこじんまりしていますが、それでも、普通教室、特別教室など、他校にある教室はすべてそろっています。体育館は新しいし、授業は専門の先生が教えてくださいます。都城市より一人一台ずつのパソコンが貸与され、とても充実した環境のもと、学校生活を送ることができます。これも税金のおかげだと思うと、ありがたい気持ちでいっぱいです。

八月上旬、総務省より発表された二〇二三年度ふるさと納税額で、都城市は二年連続全国一位となりました。一位は五回目、この五年は一位または二位です。集まったお金は、保育料の無償化や子どもの医療費の完全無料化などの子育て支援、移住者支援などに使われているようです。僕たち中学生が、病院の窓口でお金を支払わなくてよいのも、税金のおかげです。

これらのことを考えると、税金は僕たちの生活に欠かすことのできないものです。当然ですが、警察や消防、ごみ処理などの公共サービス、道路や水道などの社会資本にも税金が使われています。だからこそ、税について学び、正しい知識をもつことが大切だと思います。まずはしっかり勉強して、就職して働いて、税金を納めたいと思います。今の僕たちが税金で支えられているように、将来の子どもたちも税金で支えられている生活を送ることができるようになるように。